

Crown English Communication I, pp. 30–31.

Lesson 3

A Canoe Is an Island

In 2007, the Hawaiian canoe *Hōkūle‘a* and another boat *Kama Hele* sailed from Hawaii all the ⁽¹⁾way to Japan. Uchino Kanako was a crew member. Here’s her story.

—1

I have always loved the sea. When I was in college, I visited Miyake-jima with a ⁽²⁾friend of mine. I explored the ocean and fell in love with its beauty. ⁽³⁾Ever since this visit, I have really been interested in the sea.

I knew I had to learn more about the sea, but I didn’t know where I could study. And then I found a book about Nainoa Thompson and the *Hōkūle‘a*. I read about how this ⁽⁴⁾native Hawaiian learned traditional navigation skills from his master Mau Piailug of Satawal. I also learned that the *Hōkūle‘a* successfully sailed from Hawaii to Tahiti in 1976 by using traditional navigation.

I became very interested in the ancient skills needed to ⁽⁵⁾navigate across the ocean. I made up my mind to go to Hawaii, and to take a look at the *Hōkūle‘a* with my own eyes.

Lesson 3—Lead

(1) way¹ 図 成句 **all the way**, p. 2127.

all the way* (1) ずっと, はるばる (1 空間的にも時間的にも使う) ▶drive *all the way* down to Miami マイアミまでずっと運転する/It rained *all the way*. ずっと雨が降っていた. (2) (範囲の広さを示して)さまざまに. (3) 完全に, すっかり ▶I'm with you (there) *all the way*. その点でまったく同感です.

- way の成句として辞書に記載があるので調べさせて, 頻出する成句としてアステリスク (*) がついていることを確かめさせる。
- 教科書本文では **all the way** に場所を表す **to Japan** という表現が続いていることから, よく似た空間表現が辞書の用例になっている成句義(1)を参照させ, ここでは「はるばる日本まで」という意味になることを理解させる。
- さらに 2 の解説や辞書の第 2 用例から, 時間的な表現にも使えることをチェックさせるとよい。

Lesson 3—Section 1

(2) friend 図 1, p. 768.

friend /frend/ (1-ie- は /e/) [語源は「愛する人」]
((形) friendly, (名) friendship)

— 図 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

- 意味がわかっているのに生徒は辞書を引こうとしない語だが, スピーキングやライティングに使える情報を確認させたい。辞書の第 3 用例が教科書本文と同じ **a friend of mine** になっているので参照させ, よく用いられる表現として太字用例になっていることをチェックさせる。
- 言い換え可能な表現を示す角かっこを使った部分で, **mine** の言い換えとして **me** は使えないことが × を用いて示されているので確かめさせる。
- 「私の友達」と表現する場合, 本来 **a friend of mine** とすべきところで生徒はしばしば **my friend** を使うので, 用法をしっかり覚えさせたい。 **a friend of mine** と **my friend** との違いが, 語義 1 第 3 用例にある 2 の解説(1)に説明されているので確認させる。教科書本文では, 文脈から誰とは特定できない友人を示しているので **a friend of mine** が使われていることに注意させる。

(3) ever 図 成句 **ever since (...)**, p. 649.

ever since (...)* [[副詞的に]] (それ以後)ずっと; [[前置詞・接続詞的に]] (...して)からずっと ▶We've been together *ever since*. 私たちはそれからずっと一緒です.

- **since** の意味がわかっているならば解釈は可能だが, **ever** が「ずっと」という継続性を強調する役割を果たしていることに注目させる。
- 2つの用法指示, [[副詞的に]]と[[前置詞・接続詞的に]]のうち, 教科書本文は前者の「[[副詞的に]](それ以後)ずっと」の方に該当し, この部分が「この訪問以降ずっと」という意味になることを確認させる。

(4) native ㊦ 2, p. 1271.

na·tive* /néitiv/

【原義は「生まれながらの」】

— ㊦ (比較なし) 1 ㊦の前で] 出生地の, 母国の, 故郷の
 ▶one's native land [country] 母国/one's native language [tongue] 母(国)語/her native Canada 彼女の母国カナダ/one's native town 《ややまれ》故郷 (1 one's hometown が普通).

2 ㊦の前で] その土地[国]に生まれた[育った], 土着の, 生粋の(人) ▶a native Texan 生粋のテキサス人.

- 教科書本文が this native Hawaiian と名詞に先行していることから, 形容詞の限定用法であることを確認させる。
- 角かっこを使った用法指示が【㊦の前で】となっており, さらによく似た表現が辞書の用例になっていることから語義 2 に導く。
- 見出し語の横に語源情報が示されているのでチェックさせる。【原義は「生まれながらの」】と記されていることから, カタカナ語の「ネイティブ」が持つ「(英語を話す)外国人」というイメージは, 英語の native とはズレがあることを確認させる。

(5) navigate ㊦㊧ 1, p. 1273.

— ㊧ 1 (船・飛行機が)航海する, 航行[飛行]する; (人などが) (船・飛行機を)操縦する; 《比喩的に》舵を取る, 誘導する ▶navigate by the stars 星を見て航海[飛行]する.

2 (人が)(車の針路・経路を)決定する, ナビゲートする; 導く, 案内する. 3 ㊦+㊦進む, 前進する; うまく切り抜ける, 対処す

- (4)の native を引けば, 辞書の数ページ先には navigate があるので簡単に調べさせることができる。さらに教科書 30 ページ冒頭の写真の左上にある引用詩句で使われている名詞 navigator や, 前の段落末に出ている名詞の navigation も, 辞書では次ページに出ているので一緒に確認させたい。

nav-i-ga-tion* /nævigeiʃ(ə)n/ [→navigate]

— ㊦㊧ 1 航海術[学], 航空術[学]; (船・飛行機・車などの) 誘導 ▶la satellite [an automotive] navigation system 衛星航法システム[カーナビ].

2 航海, 航行; 運行, 運航 ▶ocean navigation 遠洋航海/inland [internal] navigation (川・湖などを運航する) 内陸航行. 3 [インターネット] (サイトの)閲覧.

◆N: Acts [the ~] [英史] 航海法[条例] 《イギリスが貿易を行う船をイギリス船籍に限定した条例》. ~ light [通例 ~s] [海] 航海灯; [空] 航空灯.

~al /-n(ə)l/ (強勢移動) ㊦の前で] 航海[航空]の.

nav-i-ga-tor* /nævigeitə/ ㊦㊧ 1 航海士, 航空士. 2 航海者; (近世初期の)海洋探検家. 3 (飛行機などの)自動操縦装置.

- 教科書本文では目的語となる名詞ではなく前置詞句が続いていることから, 自動詞用法をチェックさせる。ここではカヌーの話をしていることから語義 1 に導く。
- ㊧ 語義 2 や㊦navigation の語義 1 の用例を参照させて, いわゆる車の「ナビ」はこの語から来ていることを確認させるとよい。

Crown English Communication I, p. 32.

—2

After I finished college, I went to Hawaii to study ocean ecology at the University of Hawaii.

I went to see the *Hōkūleʻa*. (1)She was back from a long voyage. I began to participate in repairing the *Hōkūleʻa* for the next voyage. I trained to be part of the (2)crew. I learned about traditional navigation and Hawaiian culture.

In 2007, the *Hōkūleʻa* was planning a five-month voyage from Hawaii to Micronesia, and then to Japan. I felt (3)honored when I was asked to be a crew member on the canoe from Micronesia to Japan.

Lesson 2—Section 2

(1) she ㊦ 3, p.1725.

3 [[乗り物・機械をさして] それは ▶I went to Hokkaido on a ship. She was a fine ferry. 私は北海道へ船で行ったが、それは立派なフェリーだった (愛着を込めた表現; 船のほか、愛車・愛用機などに用いるが、itの方が普通).

- ・ 教科書本文の同じ段落の先行する文を参照させ、そこには代名詞 she が指すことのできる名詞が Hōkūle‘a しかないことを確認させる。
- ・ [[乗り物・機械をさして]]という用法指示から語義 3 に導く。辞書の用例とそれに続く ㊦ の解説から、教科書本文が it ではなく she を用いているということは、ホクレア号に愛着を示しているからだということをチェックさせる。

(2) crew¹ ㊦ 1, p. 451.

crew^{1*} /kru:/ (ew は /u:/)
 [語源は「兵士を増やすこと」]

㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ [[集合的に; (主に英) では単複両扱い] 1 (船舶・航空機・宇宙船などの) 乗組員, 乗務員; (高級船員を除く) 船員 (乗組員を団体として見る時は単数扱い; 一人ひとりの乗組員を意識する時は単数形でも複数扱い) ▶ The whole crew has boarded. 乗務員全員が乗船した/ All the crew have their own life jackets. 乗組員全員がおおの救命胴衣を持っている。

2 (特殊技能を持って一緒に仕事をする人の) 一団, 一同, チーム, 班 ▶ We have a crew of seven on the mission. その任務のため7人編成のチームがある/a camera [fire] crew 撮影[消防]の作業班。

3 (くだけで・通例非難して) [[単数形で] 連中, 集団 ▶ a motley crew of artists あれこれいる芸術家集団。

4 (ボートレースの) チーム, クルー; ㊦ (米) ボートレース, 競艇。

5 (くだけで) (ラップ・ミュージックなどの) グループ。

㊦ (人が) (船などに) 乗り組む。

㊦ (人が) 乗組員として働く。

㊦ ~ cut クルーカット (角刈りの一種). ~ member = crewman. ~ neck (セーターなどの) 丸首; 丸首のセーター [シャツ]. ~ sock [[通例 ~s]] クルーソックス (うねのある厚手の短い靴下).

- ・ 見出し語に続く ㊦ のロゴから数えられる名詞であること、さらに [[集合的に; (主に英) では単複両扱い]] という用法指示から、主語になった場合には数の一致に気を付ける必要があることに注意させる。
- ・ カヌーの話であることから語義 1 を調べさせ、語義に続く ㊦ の解説から、どのような場合に単数扱い・複数扱いになるのか確かめさせる。

- ・ 分離複合語は見出し語の項目末尾に、「㊦」の印に続けて掲載されていることを確認させる。教科書の次の段落には a crew member という表現があるので、分離複合語の ~ member を調べさせる。見出し語は ~ を使って省略されていることにも注意させるとよい。イコール(=)で crewman と同じ意味であることが示されているので、辞書の数行下にある crewman を参照させる。

crew·man¹ ㊦ (主に男性の) 乗組員[乗務員] (1人) ((男女共用) crew member).

- ・ さらに、crewman の語義の末尾に ((男女共用) crew member) と記されていることをチェックさせる。(男女共用) というレーベルは、性差別を伴わない表現に付けられていることに注意させて、教科書本文の著者も女性であり、乗組員には男性も女性もいるので crew member の方がふさわしい表現であることに触れるのもよい。

(3) honor ㊦ 1, p. 935.

㊦ (~s /-z/; ~ed /-d/; ~ing /á:(n(ə)rɪŋ|ɔn(ə)rɪŋ/)

㊦ 1 (人)に «…の» 光栄を与える, «…で» (人)に敬意を表する «with»; [[be ~ed]] «…を/…して/…ということ» 光栄に思う «by/to do/that 節» ▶ The Queen honored the town with a visit. 町は光栄にも女王陛下のご来駕(ご来駕)をたまわった/I was deeply honored to receive the award. その賞をいただくことを大変光栄に思いました/"Would you be a godparent for our daughter?" "I'd be honored." 「うちの娘の名付け親になっていただけませんか」「喜んで[光栄です]/So, you've finally decided to honor us with your presence. さてさて、ついに我らにご臨席の栄をたまわると決断をなされましたか (㊦ めったに出席しない人などを皮肉って).

- ・ 教科書本文が felt honored と feel+過去分詞になっていることから、honor という動詞が分詞形容詞的に使われていることを確認させる。
- ・ [[be ~ed]] と過去分詞で用いる形を示した語義 1 に導き、教科書本文では著者が「光栄に感じた[思った]」と表現していることを確かめさせる。ここでは when 節が続いているが、辞書の第 2 用例のような to 不定詞が続く形もよく用いられるのでチェックさせるとよい。

Crown English Communication I, p. 33.

In January 2007, the *Hōkūleʻa* started out. On the 56th day, we arrived at Satawal in Micronesia. People ⁽¹⁾welcomed us warmly. They carried a sign saying, “Welcome to Satawal.”

Then we headed for Okinawa. We were able to see the Big Dipper. We could also see the Southern Cross. Being ⁽²⁾familiar with the movement of about 220 stars was just one of the skills which we needed. We also learned to read the movement of the waves and ⁽³⁾changes in wind direction. We were on our way to Okinawa, slowly but steadily.

(1) welcome ㊦ ㊧ 1, pp. 2136–37.

— ㊦ 1 〈人など〉を歓迎する; 〈人〉に歓迎のあいさつをする; [〜 A to [into] B] B (場所)に A (人)を喜んで迎え入れる ▶ Jessica was *warmly [heartily] welcomed* by her host family. ジェシカはホストファミリーから温かい[心のこもった]歓迎を受けた/*welcome* the guests *with open arms* 来客を双手を挙げて歓迎する/It is my pleasure to *welcome* you to Japan. 日本にお迎えできて何よりです。

- 教科書本文では us という人を表す目的語が続いているので、他動詞用法を調べさせる。他動詞に続く典型的な目的語(選択制限)についての情報が山形かっこ〈 〉に示されているので、〈人など〉が目的語となると記した語義 1 に導く。
- 辞書の第 1 用例には、教科書本文と同じ副詞 *warmly* が使われているのでチェックさせる。よく使われるコロケーションとして太字用例になっていることにも注意させる。
- 教科書本文の次行の表現(*Welcome to ...*) が㊦(間投詞)の第 1 用例として太字で示されているので確かめさせる。『ウィズダム英和辞典』は頻度順に語義を記しているので、この表現が頻繁に使われることに触れるのもよい。また第 2 用例として太字で示されている *Welcome back [home]!* も会話の重要表現として確認させる。

wel·come ¹ /wélkəm/ [語源は「うれしい (will) 訪問客 (comer)」]

— ㊦ ㊧ [〜(+㊦)] ようこそ, いらっしゃい (㊦ ㊧ は場所の表現) ▶ *Welcome to Britain.* イギリスへようこそ/*Welcome back [home]!* お帰りなさい (㊦ ㊧ 長く留守をしていた人)/ *Good evening and welcome to our program!* 今晚は、当番組へようこそ (㊦ ㊧ 番組司会者などのせりふで)。

(2) familiar ㊦ 2, p. 687.

2 [[be ~]] 〈人が〉〈物・事〉を熟知している, 〈物・事に〉精通している «with» ▶ I'm *familiar with* his work. 彼の仕事はよく知ってるよ (≒ His work is *familiar to* me.).

3 〈景色・問題・話などが〉一般的な, よくある。

4 〈人と〉親しい, 親密な «with»; 打ち解けた; くつろいだ; 〈言葉が〉くだけた ▶ be on *familiar terms with* A A (人)と親しい間柄である。5 〈否定的に〉〈目上の人などに〉なれなれしい; 〈人と〉性的関係がある «with»; 厚かましい, 無作法な; ぞんざいな。6 〈動物が〉飼い慣らされた。7 〈古〉家族の。

- 教科書本文が前置詞 *with* を伴っていることをチェックさせる。共に使われる前置詞などを示した二重かぎかっこ〈 〉で«with»と記されている語義 2, 4, 5 を比較させる。
- 教科書本文では *familiar with the movement* と, *with* 以下に人ではないものが続いていることから語義 2 に導き、ここでは「(星の)動きに精通している」という意味になることを理解させる。

(3) change ㊦ 1, p. 317.

— ㊦ (㊦ ~s /-ɪz/) 1 ㊦ ㊧ «…の» 変化, 推移, 変遷; 修正(点), 改良(点) «in» ▶ There will be *no change in* policy. 今後方針に変更はない (㊦ a *change of* policy は「方針の転換」; ↓ ㊦ ㊧ /*radical changes in* medicine 医療分野の抜本的改革/*make (some) changes to* my report レポートに修正を加える/a *change for the better [worse]* 改善, 改良, 好転[改悪, 悪化]/*have a change of* heart (重大な経験の後) 気持ちが変わる/ *political and social change* 政治および社会の変遷[変化]/*the major political and social changes of the period* その時期に政治的・社会的に変わった主要な点 (㊦ ㊧ 個々の変化・変革の意味では ㊦ ㊧) / *climate change* 気候変動。

- 教科書本文では *changes* が動詞 *read* の目的語であり、名詞用法であることを確かめさせる。
- 共に使われる前置詞などを示した二重かぎかっこ〈 〉で«in»と記されている語義 1 に導き、教科書本文が「風の方向の変化」という意味になることを確認させる。日本語で「…の」という場合、*of* 以外の前置詞もしばしば用いられるので注意させる。辞書の第 1, 第 2 用例と用例訳, 第 1 用例に続く ㊦ ㊧ の解説から、「…の変化」= 「…における変化」を意味する場合は *in* を用いることを理解させる。

Crown English Communication I, p. 34.

—3

The crew members who were on the *Hōkūle‘a* were busy. The most important job was steering the canoe. Three teams took ⁽¹⁾turns. My team worked from 10 a.m. to 2 p.m., and then from 10 p.m. to 2 a.m. The team steering the canoe had to stay ⁽²⁾alert all the ⁽³⁾time.

One night, the ocean was exceptionally calm. The sea was so quiet that you could even see the

Lesson 3—Section 3

(1) turn 成句 **take turns**, pp. 2042–43.

take turns = (英) *take it in turns** «…を/…するの
に» 交替でやる «in, at/to do, doing» ▶We took turns
sitting with her in the hospital. 病院で私たちは交替で
彼女の付き添いをした。

- 動詞＋名詞からなる成句は、通常は名詞の項目で挙げられていることに触れた上で、教科書本文の **take turns** の場合は **turn** が名詞であることを確認させる。
- 複数の品詞を持つ語の場合、成句はそれぞれの品詞の語義に続いて出ていることに注意させる。**turn** は動詞部分にも多くの成句があるが、この成句は名詞語義の後に出ているので調べさせ、「3つのチームが交代でおこなった」という意味になることを確認させる。

(2) alert 形 1, pp. 51–52.

—形 (more ~; most ~) 1 «…に» 油断のない, 用心深い, 気を配っている, 警戒している «to, for» ▶stay alert 気を抜かない/Mothers must be alert to signs of disease in their children. 母親は子供の病気の徴候にいつも注意していなければならない。

- 辞書の第1用例が教科書本文と同じである語義 1 を参照させ、この部分が「気を抜くことなく、警戒[注意]する」という意味になることを確認させる

(3) time 成句 **all the time**, p. 1987.

*all the time** (1)(その間中)ずっと; いつも ▶I'm with my kids *all the time*. 私はいつも子供たちと一緒にです。(2) [[接続詞的に]] …の間はずっと ▶She wore a big hat *all the time* she was out. 彼女は出かけている間、ずっと大きな帽子をかぶっていた。

- 成句は構成単語の最も特徴的な語(動詞＋名詞や前置詞＋名詞なら名詞など)に出ていることに触れた上で、**all the time** の場合も名詞の **time** の方に出ていることを想定させてから辞書を調べさせる。
- 2つの成句義のうち、教科書本文は副詞的に用いられていることを確認させ、[[接続詞に]] という用法指示のある(2)ではなく、(1)の方をチェックさせる。

Crown English Communication I, p. 35.

reflection of the stars. I was the only one on deck, and I felt very peaceful. I also felt very much connected to the great universe. I was one tiny person on a tiny canoe. But the ⁽¹⁾fact is that I was part of the whole.

After leaving Micronesia, we ⁽²⁾traveled a distance of almost 2,000 kilometers. The stars and the sun and the waves guided us. As we got near Okinawa, I felt that we were one big family.

It was morning. “Look! I can see something,” cried one of the crew members. It was an island—Okinawa. But to me at that moment, it was much more than an island. Land, water, people and other life in the ⁽³⁾middle of this vast ocean. It was truly a miracle.

(1) fact ㊦成句 **The fact (of the matter) is (that)**, p.679.

The fact (of the matter) is (that).... * [[否定・訂正]] 《話》(特に認めがたいこと・予想外のことを述べて)実は…だ ((ややくだけて) Fact is(,) ...) ▶He calls himself a doctor. **But the fact is**, he is a pharmacist. 彼は自分を医者だと言っているが、実は薬剤師なんだ。

- 教科書本文の the fact is that ... の形を確認させてから fact の成句を探させる。辞書ではしばしば丸かっこ()で省略可能な要素を示していることに触れ、ここでは of the matter のない形であることを確認させる。
- [[否定・訂正]]という用法指示や成句義およびその前にある補足説明をチェックさせ、前文で述べていたことを否定する内容が続くことを確認させる。辞書用例の太字部分や教科書本文が but と共に使われていることに注意させたいので、ここでは but の前の文で述べている「私は小さなカヌーに乗っているひとりの小さな人だった」というより、それどころか「実際は(海・世界・宇宙といった)全体の一部であった」と述べていることを理解させる。

(2) travel ㊦㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㊿, p.2022.

— ㊿ 1 〈ある場所〉をあちこち[くまなく]旅行する; …をセールスして回る ▶travel the world 世界中を旅行する。
2 〈人・乗り物などが〉ある距離を進む, 行く ▶travel 100m in five seconds 5秒間に100メートル進む[走る]。

- 教科書本文では a distance of ... と名詞が後続した他動詞用法であることを注意させる。
- その動詞と共に用いられる典型的な主語や目的語の名詞(選択制限)についての情報が山形かっこ〈 〉に示されているのでチェックさせる。教科書本文の主語は人(we)であり、目的語は距離(a distance of ...)であることから語義 2 に導き、ここでは約2,000キロの距離を進んだという意味になることを確認させる。

(3) middle ㊦ 1, p. 1211.

mid·dle /mɪd(ə)/

【原義は「(位置・時間の)中央, 真ん中」

— ㊦ (㊿~s /-z/) ㊿ 1 [[the ~]] 中央; 中央部分, 真ん中; (出来事・期間などの)中間, 中途; (地位などの)中位 (㊿物や場所の中心点を示す center とは違い, 事・物・場所の中心(とその周辺)部分や両端[側]から等距離の部分[地帯]をさす) ▶in the middle of [the garden] [his forehead] 庭[彼の額]の真ん中に/a park with a pond in the middle 中央に池がある公園/The cake is still hot in the middle. そのケーキの芯はまだ熱い/He is standing **right in the middle** [×center] of the road. 彼は道路のど真ん中に立っている (㊿細長い場所の中央は center としない)/arrive in the middle of the meeting [night] 会議の最中[真夜中]に到着する/by the middle of next year 来年半ばまでに/the middle of the class [story] 授業[物語]の途中。

- 辞書の第1用例が教科書本文と同じであることから語義 1 をチェックさせて、ここでは「この広大な海のただ中の、陸地、水、人々、そしてほかの生き物」という意味になることを確認させる。
- 語義末尾にある ㊿ の解説を参照させて、center との違いを意識させるとよい

Crown English Communication I, p. 38.

—4

On June 9, 2007, we reached Yokohama, the end of our trip. As I think about the voyage, I have a deeper appreciation for our relationship with nature.

Traditional navigation ⁽¹⁾teaches us how to see nature. It also teaches us that nature is providing everything we need. We have to learn how nature works in ⁽²⁾order to receive its gifts.

The Hawaiians say: “A canoe is an island, and an island is a canoe.” We can also think of our

Lesson 3—Section 4

(1) teach ㊦㊧ 2, pp. 1931–32.

2 [teach A (how) to do] (人・事実・経験などが A (人など) に…(の仕方)を教える ▶The teacher [course] taught me (how) to dance. その先生[コース]は私に踊り方を教えてくれた (㊦ 通例過去形では how to dance は単に踊りを教えた事を意味し, to dance は教えて習得させたことを意味する)/ Some stories teach children how to live in a society. 子供たちに社会での生き方を教えるような物語もある。

3 [teach (A) that 節/wh 節・句] (人・経験・事実などが A (人) に…ということを[…か]を教える, 悟らせる ▶She taught her daughters that marriage was important. 彼女は娘たちに結婚の大切さを教えた (㊦ that は省略しない)。

- 教科書本文が teaches us how to see nature と「teach+目的語+how to do」の形をとっていることを確かめさせる。
- [[teach A (how) to do]]という文型表示から語義 2 に導く。丸かっこ()は省略可能な要素を示していることに触れ, 教科書本文のように teaches us to see nature とすることもできることに注意させる。
- 教科書本文の次の行が teaches us that ... と今度は that 節を従えていることに注意させ, 文型表示[[teach (A) that 節/wh 節(句) to do]]という語義 3 も同時にチェックさせるとよい。基本的な動詞なので teach=「教える」という意味だけではなく, 発信活動のためにどのような文型が取れるのかもしっかりと覚えさせたい。

(2) order ㊦㊧ in order (for A) to do, p. 1357.

in order (for A) to do (かたく) (A (人・物)が…するために[目的で] (→so¹ as to do 類義) ▶I didn't tell her about his death in order not to upset her. 彼女にショックを与えないように彼の死は知らせなかった/In order for people to work well together, each employee must know his or her own role within the company. 一緒にうまく働けるように, 一人ひとりの従業員が会社における自らの役割を自覚しなければならない。

- 二重丸括弧で囲って(かたく)と示されているので, かたい表現であることに注意させる。
- 教科書本文が in order to receive its gift となっていることから, ここでは「その恵みを受けるために」という意味になることを確認させる。
- 成句義の中で(→so¹ as to do 類義)と参照指示が出されているので, so¹の成句 so as to do にある類義 コラム(p. 1792)を調べさせる。(1)にある㊦㊧というロゴは, コーパスから発見された英語使用の実態についての分析であることを示しているので注意させ, ()で示されている to do, in order to, so as to do の使用域の違いなどを理解させる。このコラムには, (1)以外にも多くの有益な情報が出ているので, 適宜参照させるとよい。

類義 so as to do と in order to do, to do
 (1) ㊦㊧「…するために」という表現では to do がもっとも一般的。in order to do と so as to do はともに《書》で好まれ, in order to do の方がより《かたく》, 頻度も高い。so as to do は「結果」, in order to do は「目的」をより意識した表現。
 (2) have, know などの状態動詞の前では to do よりも in order to do, so as to do の方が普通; →stative ㊦㊧ ▶I listened to him carefully so as to know more about him. 私は彼のことをもっとよく知るため彼の話を注意深く聞いた。
 (3) 否定の目的「…しないように」の意味を表すためには take care, be careful などの直後を除いて not to do は用いられず, so as not to do, in order not to do の形が普通用いられる ▶Anna moved quietly [so as not to / in order not to] disturb them. アンナは彼らのじゃまをしないように静かに移動した。
 (4) ㊦㊧ 目的以外に自然の成り行き・結果を暗示するときは so as to do が好まれる ▶I got up early so as to take the first train. 私は早起きしたので始発列車に乗れた。
 (5) so as to do は in order to do と異なり, 通例文頭には用いない ▶In order to [×so as to] pass the exam, I think you should work harder. 試験に合格するためにはもっと勉強の方がよいと思う。
 (6) so as to do は in order to do と異なり意味上の主語を置くことができない ▶She drove his son to the station early this morning in order for him to [×so as for him to] catch the first plane for Moscow. 息子がモスクワ行きの最初の飛行機に乗れるよう彼女は今朝早く駅まで車で送った。

Crown English Communication I, p. 39.

planet Earth as a canoe in the vast universe. What are we ⁽¹⁾doing with “our canoe”? What do we ⁽²⁾value? Where do we want to go? What is our role as crew members on our canoe? After the voyage to Japan, the *Hōkūle‘a* set sail to go around the world in 2014 to ⁽³⁾raise these questions.

We are all part of nature. We can learn to work together with nature to make our canoe, our earth, a more beautiful and harmonious place for all life.

(1) do¹ 動成句 do A with B, p. 554.

do A with B 《話》〔疑問文・否定文で; Aは what〕どのようにB(人・物・事)を扱う[処理する, 処置する]か; B(人・物)をどこへやったのか ▶I don't know what to do with my son. 私は息子をどう扱ってよいのかわからない/What have you done with the money? そのお金をどこへやったのですか (1) What have you done with my son? は「息子と何をしましたか」ではなく、「息子をどこへやったのか」となる; What have you done to my son? は「息子に何をしたんだ」の意; ↑ do ... to A) /What have you been doing with your weekend? 週末はどのように過ごしていましたか。

- ・ 〔疑問文・否定文で; Aは what〕という用法指示をチェックさせる。教科書本文が What are we doing with “our canoe”? となっており、疑問文のため A にあたる目的語の what が文頭に置かれていることを理解させる。
- ・ 成句義や辞書の用例訳から教科書本文が「私たちは『私たちのカヌー』(ここでは前文にある our planet Earth を canoe に見立てた表現)をどう扱っているのか?」 という意味になることを確認させる。

(2) value 動他 1, p. 2087.

— 動 (～s /-z/; ～d /-d/; -uing)

— ① (1) 進行形にしない 1 (人が) (人・物) を尊重する, 重んじる; «…であると/…の点で/…より高く» (人・物) を評価する «as/for/above» ▶value A's opinion A (人) の意見を尊重する/I value freedom far above money. 私は金銭よりも自由をずっと重んじる。
2 «…の金額と» (物) を見積もる, 査定する «at» (1) しばしば受け身で ▶The property was valued at \$10 million. その資産は1千万ドルと評価された/I have had my house valued. 我が家の価格を査定してもらった。

- ・ 教科書本文が名詞用法ではなく、目的語の名詞を伴った他動詞用法であることを確認させる。
- ・ ①のロゴに続き「(1) 進行形にしない」と記されているのをチェックさせ、状態動詞であることを注意させる。
- ・ 教科書本文が自然と我々人間との関わりについて述べていることから、「(金銭的価値)を見積もる」という語義 2 ではなく、「尊重する, 重んじる」という語義 1 の方がふさわしいことを確かめさせる。

(3) raise 動他 6, p. 1549.

6 (問題など) を提起する; (質問・異議など) を出す ▶raise the issue of AIDS エイズの問題を提起する/raise a question 質問を出す。

- ・ 教科書本文が raise these questions という目的語を伴った他動詞用法であることを確認させる。
- ・ その動詞と共に用いられる典型的な目的語の名詞(選択制限)についての情報が山形かっこ 〈 〉 に示されているのでチェックさせる。教科書本文の目的語が questions であることから語義 6 に導く。raise のような語義番号が二桁にもなる多義語の場合、選択制限に注目することで、適切な語義に素早くたどり着けることを理解させる。